

IV 『AI／人生100年』という新しい時代となり、「人生の成功者像」が変わりました

「人生レースの長さ」が昭和時代の「人生70年」から一気に『人生100年』へ向かい、“長生きリスク”（＝健康寿命／絆／キャッシュフローが尽きる）によって“途中棄権”する人が急増している。
—— 経産省レポート（2017年公表）が「リタイア世代の実態」（居場所のない定年後／望んだものと違う人生の終末）を示している。→ **そのため「新・成功者」は「ゴールまで完走して、いい人生だった！と思える人」に。**—— 財産や地位ではなく、真に大切なものに目を向ける必要がある

BST
コメント

「新・成功者」となるのに必要なのは「人生の目的」を実現する『生きる力』である。とりわけ「健康寿命（男性73歳／女性75歳）が尽きて棄権する人」（常に医療や誰かの介助を必要とする人）にならない。→ **そのため「どうやって健康寿命を大きく伸ばすのか？」という難問に取り組む。**—— 「ライフサイエンス」（＝生命科学）の基礎を学び、「健康寿命100歳（男性95歳／女性100歳）への科学的アプローチ」を実践するのが有効です

V 国も／企業も誰も守ってくれない「自己防衛社会」（＝Self Defense Society）になりました

昭和の「右肩上がり」の時代に作った「社会保障制度」（健康保険・年金）／「雇用制度」（終身雇用・年功序列・定年制）を維持できない。そこで国は「GWD」（＝Gross Domestic Well-being）／『ウェルビーイング』（≡幸福）を、企業は「ウェルビーイング経営」／「幸福論」を言うようになった。→ **国民／従業員の意識を「幸福」に向けさせ、「多少貧しくても幸せであればいい。幸せという私的な（＝プライベートな）ものは自分で掴むもの」という方向に向かっている**

BST
コメント

“右肩下がり”や『AI／人生100年』が現実となった今、自分のために「幸福とは？／幸せな人生とは？」の「問い」に向き合うのは有意義です。—— この「問い」に自分なりの「答え」を見出す人は、日本社会が「2：6：2」から「2：8」になる中（＝中間の「6」が“不幸せ／下流”の仲間に入る）、上位の「2」（＝幸せな人）に入れるでしょう